

1月30日(月)

待 機 訓 練

聖書朗読 使徒 1 : 1 ~ 5

彼らといっしょにいるとき、イエスは彼らにこう命じられた。「エルサレムを離れ
ないで、わたしから聞いた父の約束を待ちなさい。」 使徒 1 : 4

私たちは、主をお待ちするためにかかる時間がない、ということはありません。
第2章の大いなる出来事は、第1章を待った後にしか起こりません。主をお待ちする
ことは喜び、見通し、再生を与えてくれます。

主をお待ちすることは、真の力は、自分たちではないということを私たちが知
っていることを、神様に示すことになります。それは、私たちの計画でも、仕事で
ありませんし、ほかのどんなことでもありません。私たちは、日々のパンを与え
てくださることに至るまで、すべてのことを神様にお頼りしています。『私たちは、
神の中に生き、動き、また存在しているのです。』(使徒 17 : 28)。主をお待ち
するというのは、このことを認めているということです。

それはまた、私たちの信仰のしるしでもあります。主をお待ちすることは、私
たちが関われることではなく、むしろ神様がなさることであると信じるなら、神様
のお邪魔になるようなことはしません。なぜなら私たちにすべきことが山のように
あるからです。私たちは、自分のすべきことを神様の御前にお持ちして、すべきこ
とを前に進めながら、神様のお導きと御恵みを求めます。これは、まさにイエス様
がいのちに近づかれた方法であり、イエス様の御体である教会が、イエス様が行な
われたことや教えられたことをしたときの方法です(使徒 1 : 1)。私たちもまた、
主をお待ちしましょう。

讃美歌 280

祈り お父様。私たちは忙しい日々を過ごし、祈りがいとも簡単に脇に押しや
られてしまいます。私たちのスピードを遅くして、どのようにしてあなたを
お待ちするかを教えてください。

イエス様の御名において。アーメン。

ブルース・グリーン
アラバマ州 オペライカ

今日の力

2017年1月30日~2月5日

翻訳 村越克子

中野雄貴

編集 岩田欣三

この冊子の聖句は、新改訳聖書第三版を使用しています。

御茶の水キリストの教会

1月31日 (火)

励 ま し の ス ト ー リ ー

聖書朗読 ローマ 1 : 8 ~ 17

私があなたがたに会いたいと切に望むのは、御霊の賜物をいくらかでもあなたがたに分けて、あなたがたを強くしたいからです。というよりも、あなたがたの間にいて、あなたがたと私との互いの信仰によって、ともに励ましを受けたいのです。

ローマ 1 : 11 ~ 12

サラ・アンドリュースは、アメリカにいるクリスチャンたちに支えられて、宣教師として日本に赴きました。彼女は沼津において教会を立ち上げるために用いられ、彼女の教えと善行は尊敬と感謝を受けました。第2次世界大戦が始まった当初、彼女は捕虜収容所にいましたが、その後、深刻な病にかかり、家で勾留されていました。クリスチャンとなった彼女の教え子の一人が、サラの安否を確かめようとしたり、サラを支えるために食べ物をごっそり差し入れようとしていました。

当時は、讃美歌を歌うことが許されていなかったもので、この青年は、礼拝のためにクリスチャンの仲間を集めて、藁敷きの床の上に輪になって座り、讃美歌の番号を読み上げます。そして、それぞれが聞こえるような音は出さずに心の中だけで讃美をしました。戦争終結後、サラは彼女の若い教え子たちと、彼女が必要とする物を援助してくれた軍の家族を心から励まし続けました。

これは、信仰を互いに励まし合うことではないでしょうか？ まさにそうです。サラを支える人たちは彼女を財政的に励まし、サラは教え子たちをみことばにおいて励ましました。また、教え子たちは、物質的な必要を満たすことでサラを励ましました。サラは、自分が捕虜になったことにはなんの憎しみも持たず、互いに支え合った人々への愛をもって、日本に主の教会を建て、そのことによって、励ましというレガシーを残しました。私たちもまた、まわりの人たちの信仰を強め、励まし合うことを切に望みましょう。

讃美歌 第二編 32

祈 り 親愛なる主よ。サラのような信仰深く、人々を励ます宣教師を感謝いたします。まわりの人たちの信仰を励ますことで、私たちもまた彼らの信仰と励ましのストーリーの一部になる得ることを、覚えることができますように。

イエス様の御名において。アーメン。

スーザン・K・ギボニー
カリフォルニア州 マリブ

2月1日 (水)

神 様 の な さ る こ と

聖書朗読 ローマ 5 : 12 ~ 17

神は、実に、そのひとり子をお与えになったほどに、世を愛された。それは御子を信じる者が、ひとりとして滅びることなく、永遠のいのちを持つためである。

ヨハネ 3 : 16

私は保険業界に在職していて、先日、会社の方針に記載されているいくつかのリスクについて話し合う会議に出席しました。暴風、竜巻、台風が話題になると、「神の行為」という言葉が、たびたび引用されました。私は、「神の行為」という言葉について数日間考え、そして、暴風や竜巻、台風などの危機は確かに「神の行為」と呼ばれるべきものだと納得しました。

私たちの創り主は、調和しながらともに働くことができる世界、破壊的な力の存在しない完ぺきな世界を創造されました。罪、悲しみ、破壊的な力は、神様が創造された世界にはありません。死や衰退のない世界を構築されました。しかし、アダムとエバの背きの罪と混沌が世界に入ってきました。

神様と距離を置くとき、このようなことが起こります。しかし、私たちを探し求めて救ってくださるために、この世に来られたのが救い主です。十字架上で、救い主は罪を犯していないにもかかわらず、罪人になりました。救い主は私たちすべての者のために死なれ、私たちと神様とを和解させ、私たちのいのちに平安と調和を修復してくださったのです。

讃美歌 第二編 184

祈 り 創造主として救い主よ。あなたの大いなる愛と御恵みをたたえます。キリストという犠牲を私たちに与えてくださり、ありがとうございます。神様の賜物に、今日、集中することができますように助けてください。

イエス様の御名において。アーメン。

グレッグ・アンソニー
フロリダ州 ジャクソンビルズ

2月2日（木）

頌 栄

聖書朗読 ローマ 11：33～36

というのは、すべてのことが、神から発し、神によって成り、神に至るからです。どうか、この神に、栄光がとこしえにありますように。アーメン。

ローマ 11：36

言葉では説明できない出来事があります。たとえば、3人の息子たちの誕生は、言葉で言い表すのは難しいことです。私の花嫁が私の横に立つために、教会の通路の間を歩いてきた日のことも、言葉で表現するのが難しいです。そして、イエス・キリストの血によって救われた日も、言葉では言い表せません。

神様については、どうでしょうか？ 私たちの限られた語彙で神様の無限の存在をどのように表現しますか？ 5歳の子どもに、父、御子、そして聖霊の神様を説明してみてください。それを、ある日の夕食のときに試してみましたが、約3秒で息子はどこかに行ってしまいました。

「頌栄」とは、神様への讃美を短くあらわすために与えられた言葉です。偉大なる頌栄の1つは、ローマ人への手紙11章の最後に書かれています。パウロは、異邦人に救いの機会を与えるために、神様がイスラエル人の反抗と不従順をどのように用いられたかを記しました。そして、神様は、ユダヤ人の従順を引き出すために異邦人を用いられました。さらに、今、イエス様によって、信じる者すべてに対する義が存在するのです。このことは、パウロの頌栄、すなわち「ああ、神の知恵と知識との富は、なんと底知れず深いことでしょう」という言葉を導き出しました。

讃美歌 第二編 194

祈り お父様。あなたの偉大なる素晴らしさを正確に言い表す言葉を、私たちは持っていません。私たちは、創造とみことばにおいて、あなたご自身を啓示されたことをただ讃美するだけです。すべてのことが、あなたから発し、あなたによって成り、あなたに至ります。ご栄光がとこしえにあるお方に。

イエス様の御名において。アーメン。

ジョシュ・バーネット

テネシー州 ナッシュビル

2月3日（金）

ガ ー ド レ ー ル

聖書朗読 ローマ 14：13～23

その自由を、悪の口実に用いないで、神の奴隷として用いなさい。すべての人を敬いなさい。兄弟たちを愛し、神を恐れ、王を尊びなさい。

Iペテロ 2：16～17

ガードレールは安全の境界を示す柵を形作っています。今日の聖書の箇所です。語られているクリスチャンの自由には2つのガードレールがあります。

最初のガードレールは良心です。あなたの良心に反することは、まわりの人たちがしたとしても、決して正しいことではありません。自分たちが、神様に形作られたものであることを心から信じていることを、私たちの行ないが映し出すように、神様の御前で正直に生きなければなりません。私たちは、心からの忠誠心をもって、神様を尊ぶ愛によって生きます。

第2のガードレールはまわりの人たちを愛することです。自由でもあっても、私たちは、神様を信じる仲間に、愛と神様とともにある誠実さを歩むことを奨励するという高い願いによって導かれています。ですから、私たちの行ないは、まわりの人たちを尊び、仕えたいという心を映し出します。

世の中が強調するのは、個人の権利です。しかし、霊的世界で強調されるのは、神様と仲間への愛ゆえに負う責任です。

讃美歌 313

祈り 親愛なるお父様。キリストにおいて与えてくださいました救いと自由ゆえに、あなたをほめたたえます。御霊が、安全と愛というガードレールの内側に私たちを導いてくださいますように。

イエス様の御名において。アーメン。

ライマンとダナ・ミアネス
テキサス州 ビクトリア

2月4日（土）

ま さ か ！

聖書朗読 ローマ 15：17～20

「私は主のはしためです。」

ルカ 1：38

私の受け持ちの教室の壁には、電気のスィッチのすぐ下に「スヌーピー」の漫画のコピーが貼ってあります。「世界は君を中心に回っているわけじゃないんだよ」とルーシーに説明するライナスのすぐそばを通過して、生徒たちは毎日、教室に出入りします。漫画の最後のコマで、ルーシーは「まさか!」と言って、自分が信じていないこと表現します。

今どきの文化が私たちに語りかけていることとは異なり、実は、人生は自分中心というわけではありません。イエス様は「みなに仕える者になりなさい」「人の先に立ちたいと思う者は、あなたがたのしもべになりなさい」と教えられました。ですから、ライナスがルーシーに言ったことは、クリスチャンとしては納得することです。世の中は自分中心ではなく、神様と御子が中心なのです。

自分のことをについて考えてもいい唯一のときが、自分に与えられた賜物を主に帰するときです。自分を映し出すことや自分の人生の計画を立てているとき、私たちの思考は複数の人たちではなく、ただ一人の自分に移ります。すると、自分が行なうように神様が導いてくださっていることを、自分は実行しているだろうか？自分の最良のものを神様におささげしているだろうか？自分の行ないを通して神様の愛を日々あらわしているだろうか？という疑問がわいてきます。自分の意志に集中することは、まわりの人たちに対して払うべき努力を示すのを助けてくれます。

讃美歌 537

祈り 主よ。霊的生活において必要とするバランスをもつことができますように助けてください。まわりの人たちのことと自分のことについて、バランスよく適切に考えることができますように、そして、そのバランスを保てるように、自分の人生の中心にあなたにいただくことができますように助けてください。

イエス様を通してお祈りします。アーメン。

シャロン・フォルスター

テネシー州 マッキーエン

2月5日（日）

悩 ま な い で

聖書朗読 I コリント 4：1～7

空の鳥を見なさい。種蒔きもせず、刈り入れもせず、倉に納めることもしません。けれども、あなたがたの父がこれを養ってくださるのです。あなたがたは、鳥よりも、もっとすぐれたものではありませんか。あなたがたのうちだれが、心配したからといって、自分のいのちを少しでも延ばすことができますか。

マタイ 6：26～27

神様が祝福してくださる毎日はなんてすばらしいのでしょうか。今日はすこしだけ神様が私たちに与えてくださったものを感じてみましょう。私がいま座っている場所では鳥のさえずりが聞こえます。とても美しい音色です。彼らがお話していることを想像してみたりもします。私には知ることこそできませんが、それでもその声を聴けば彼らが幸せで、満ち足りていることはわかります。彼らにはなんの悩みごとも心配ごともないのです。

私たちは鳥たちから、神様にすべてをゆだねることを学ぶことができます。私たちはそのようにできるでしょうか。もちろんできます。でもそのように生きるためには今の日常を変える努力が必要です。私たちは神様の恵みと導きを信じて、日々を御前にささげなくてはなりません。私たちの悩みや苦しみを神様にゆだねる時、自分の人生を自分で何とかしようとするをやめることができます。私たちの人生を神様にゆだねるとき、神様の守りの内に、安心して歩むことができるようになります。

あせらないで、自分の人生を神様にゆだねなさい。自分の人生を自分の思った通りに進めようとするをやめなさい。人生を自分の思った通りに進めようと考えている限り、あなたの悩み苦しきは尽きることがありません。でもあなたが神様の導きを受け入れたとき、人生はあるべき姿になるのです。

讃美歌 87B

祈り 愛する神様。私たちは何度も何度も自らの悩みを解決しようとしてきました。しかし今この悩み苦しみをあなたにお委ねします。どうかあなたの創ってくださったこの美しい世界を素直な目で見つめて、あなたの偉大さを知ることができますように。

イエス様の御名により。アーメン。

スーザン・リーチ

ルイジアナ州 ムーリングスポート